

調査レポート











グラフで見る東海経済 (2012年4月)

【今月の景気判断】

東海経済は緩やかに持ち直している。自動車の挽回生産が引き続き東海の景気をけん引し、鉱工業生産は3ヶ月連続プラスと持ち直しが続いている。特に自動車生産は震災前の水準を超え、リーマンショック前の水準に近づいている。米自動車販売の増加に加え、国や愛知県の自動車購入支援策の効果により国内販売台数も増加している。設備投資は底堅く推移している。雇用環境は東海3県とも緩やかに持ち直しているが、依然として非正規が中心である。賃金の持ち直しも所定外給与が中心で、個人消費も緩やかな回復にとどまる。

今後も、国内の政策効果や米国向けを中心とした輸出環境の好転により、小型車を中心に自動車の生産・販売の増加が続く見込みである。東海経済は緩やかな持ち直しが続くが、海外景気の先行きやガソリン高が東海経済に与える影響には引き続き警戒が必要である。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗		→	輸出	↗		↗
個人消費	↗		→	輸入	↗		↗
住宅投資	↘		→	生産	↗		→
設備投資	→		→	雇用	↗		→
公共投資	↘		→	賃金	↗		→

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
2. シャド一部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気 ～ 原油価格など商品市況の動向、米国の消費動向、中国の景気減速、欧州債務危機の動向
- ・企業活動 ～ 挽回生産後の自動車の生産・販売動向、設備投資や為替相場の先行き
- ・家計 ～ 雇用・所得環境の先行き、自動車など耐久財消費の動向、株価とガソリン価格が消費に与える影響

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る東海経済」の見方】参照

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

調査部 内田 俊宏 (chosa-report@murc.jp)

〒460-8621 名古屋市中区錦3丁目20-27

TEL:052-203-5321

【各項目のヘッドライン】

項目	3月のコメント	4月のコメント	ページ
1. 景気全般	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	3~4
2. 生産	急速に持ち直している	急速に持ち直している	5~7
3. 雇用	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	7~8
4. 賃金	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	9
5. 個人消費	横ばい圏で推移	緩やかに持ち直している	10~11
6. 住宅投資	弱含んでいる	弱含んでいる	12
7. 設備投資	底堅く推移している	底堅く推移している	12
8. 公共投資	減少傾向にある	減少傾向にある	13
9. 輸出入	輸出は下げ止まり、輸入は増加基調	輸出は下げ止まり、輸入は増加基調	13~14
10. 物価	消費者物価は横ばい	消費者物価は横ばい	15
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	15
12. 倒産	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに減少	16

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目

(*) 参考資料: 「グラフで見る景気予報」 <http://www.murc.jp/report/research/list.php>

【前月からの変更点】
5. 個人消費

3月の百貨店売上が前年比プラスに転じたほか、スーパー、コンビニの売上也回復傾向が続いている

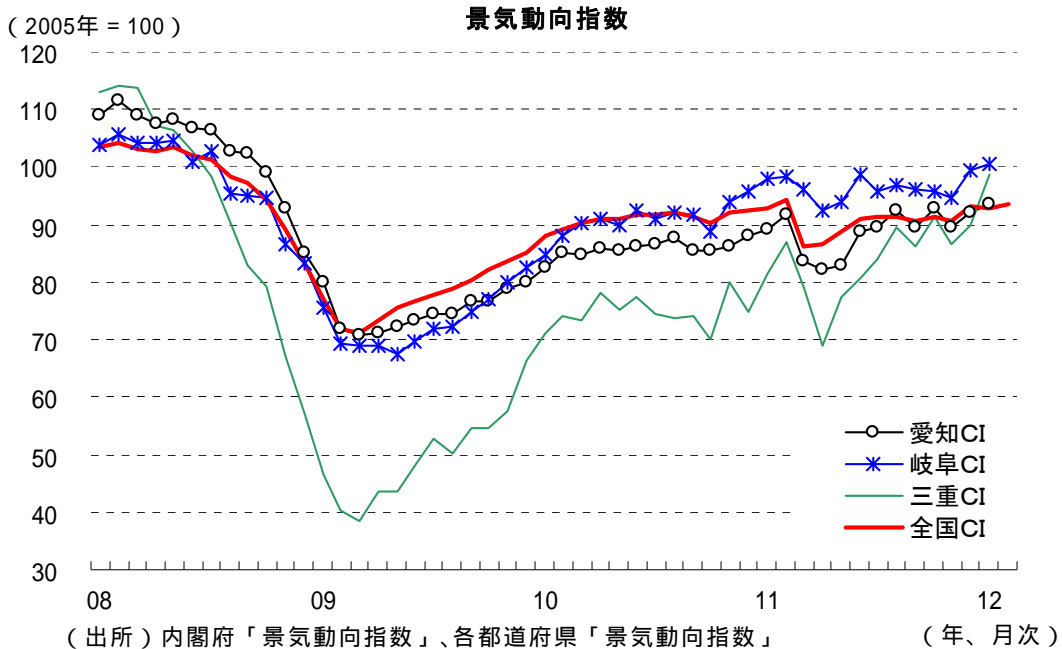
【主要経済指標の推移】

経済指標		11 1-3	11 4-6	11 7-9	11 10-12	12 1-3	11 9	11 10	11 11	11 12	12 1	12 2	12 3
景気全般	景気動向指数 愛知（C I、一致指数）	88.2	84.6	90.5	91.5		89.4	92.7	89.6	92.2	93.6		
	岐阜（C I、一致指数）	97.3	95.0	96.2	96.6		92.0	95.9	94.6	99.4	100.6		
	三重（C I、一致指数）	82.6	75.7	86.4	89.3		84.7	91.4	86.7	89.7	98.8		
	景気ウォッチャー調査（現状判断DI）	41.4	36.8	49.5	46.2	48.6	47.7	45.8	45.3	47.4	46.4	46.8	52.7
	（先行判断DI）	41.3	42.7	48.8	44.5	47.9	47.8	45.3	45.2	43.1	46.3	48.1	49.2
	短観業況判断DI（大企業製造業）	13	-25	20	4	17	2 <6月予想>						
（中小企業製造業）	-6	-29	-4	-7	-5	-11 <6月予想>							
（非製造業）	7	-24	-13	-4	-3	-9 <6月予想>							
法人企業統計経常利益 製造業(兆円)	0.0	0.1	0.2	0.3									
非製造業(兆円)	0.1	0.2	0.2	0.2									
生産	鉱工業生産（季節調整済、前期比・前月比）	-1.9	-12.7	15.8	1.1		-4.2	4.4	-8.2	11.4	2.6	1.1	
	鉱工業出荷（季節調整済、前期比・前月比）	-0.8	-13.2	17.2	0.7		-3.0	4.5	-8.9	10.6	0.9	3.3	
	鉱工業在庫（季節調整済、前期比・前月比）	0.4	0.1	4.2	-2.5		-1.4	-1.3	-0.7	-0.3	1.2	-1.6	
	鉱工業生産 輸送機械（ " ）	-6.4	-25.5	51.2	4.0		-8.0	9.9	-14.8	20.9	3.6	0.5	
	一般機械（ " ）	8.0	6.3	0.2	-4.7		-7.6	2.7	-1.5	-2.3	3.2	3.1	
	電子部品・デバイス工業（ " ）	1.7	-17.0	-4.1	2.5		1.0	-11.1	12.7	18.5	-4.5	9.3	
	プラスチック製品工業（ " ）	-0.1	-8.0	11.9	2.0		-4.0	2.6	-2.9	7.7	2.9	2.9	
	化学（ " ）	4.1	-3.2	-2.0	1.8		8.3	-2.0	-6.5	10.0	-11.7	1.7	
	電気機械（ " ）	3.9	-7.3	8.9	-3.8		-2.9	-2.1	-3.6	3.2	0.1	-0.6	
	金属工作機械受注 総受注(億円)	338.4	375.8	372.9	363.5		366.0	327.5	382.9	380.0	310.4	288.0	
国内受注(億円)	101.1	107.3	119.2	116.5		117.0	104.4	119.1	126.0	96.0	103.1		
海外受注(億円)	237.3	268.4	253.7	246.9		249.0	223.0	263.8	254.0	214.4	185.0		
大口販売電力量	2.4	-2.4	-0.5	1.9		-1.2	2.2	1.6	1.9	1.2	5.6		
雇用	完全失業率（原数値、%）	4.0	3.9	3.5	3.5								
	就業者数（季節調整済、万人）	782	767	767	769								
	常用雇用指数 愛知	102.6	104.0	103.8	103.8		103.8	103.9	104.0	103.6			
	岐阜	98.0	98.6	98.5	98.2		98.5	98.3	98.4	98.0	97.1		
	三重	103.8	103.2	102.8	103.1		103.1	103.3	103.0	103.1			
	有効求人倍率 愛知（季節調整済、倍）	0.8	0.8	0.9	1.0		0.9	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1	
	岐阜（季節調整済、倍）	0.7	0.8	0.8	0.8		0.8	0.8	0.8	0.8	0.9	0.9	
三重（季節調整済、倍）	0.7	0.7	0.7	0.8		0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	0.9		
新規求人倍率 愛知（季節調整済、倍）	1.3	1.3	1.4	1.6		1.5	1.5	1.6	1.6	1.6	1.7		
岐阜（季節調整済、倍）	1.2	1.2	1.2	1.3		1.2	1.2	1.3	1.3	1.4	1.5		
三重（季節調整済、倍）	1.1	1.0	1.2	1.2		1.2	1.2	1.2	1.3	1.3	1.4		
賃金	現金給与総額	0.0	-1.5	1.5	0.1		0.0	0.1	0.0	0.2			
	所定内給与	-1.1	-1.2	-0.7	-0.6		-0.8	-0.6	-0.3	-0.7			
	所定外給与	4.9	-6.3	2.4	7.4		4.0	8.8	5.3	8.1			
	勤労者世帯（含む農家）の名目収入 勤め先収入 定期収入	-3.1	-5.9	2.4	-1.5		-1.3	-2.1	-1.3	-1.4	5.2	6.8	
	-4.4	0.6	-1.7	-0.2		-1.4	-3.2	0.8	1.8	4.2	10.7		
個人消費	実質消費支出（うち勤労者世帯/農林漁家含む）	-5.9	1.2	-8.7	-1.1		-5.0	-2.5	-7.9	7.1	-6.5	2.1	
	名目消費支出（うち勤労者世帯/農林漁家含む）	-6.5	0.7	-8.8	-1.2		-4.9	-2.7	-8.3	7.0	-6.2	2.7	
	百貨店販売額（名古屋市内）	-3.8	-5.0	-5.1	-1.3		-2.0	-0.4	-3.8	-0.1	-2.2	-1.5	2.9
	百貨店+スーパー販売額（名古屋市内百貨店除く）	1.8	0.8	-0.5	-0.8		-2.9	-0.6	-2.1	0.3	0.1	0.8	
	コンビニエンスストア販売額	8.8	7.9	4.9	12.6		-7.3	17.0	9.0	3.2	0.6	5.6	
	消費者態度指数（一般世帯、原数値）	40.5	35.1	38.7	38.6	40.0	39.0	39.7	37.6	38.5	40.0	39.5	40.5
	トヨタ国内生産台数（季節調整済、万台）	22.4	14.0	26.3	28.5		26.7	29.8	25.8	29.7	32.8	32.1	
	家電販売額						-31.2	-45.0	-66.2	1.9	-9.7	-18.2	
新車登録台数（除軽）						8.0	34.0	28.1	24.7	46.2	32.4		
住宅投資	新設住宅着工戸数	-2.3	-2.8	8.5	-14.4		-17.4	-12.7	-19.5	-10.9	-7.6	-12.7	
設備投資	法人企業統計設備投資（製造業）	17.4	-12.6	-8.0	-10.5								
	（非製造業）	-2.3	-5.6	1.6	1.7								
公共投資	公共工事請負額	-6.0	-19.7	-6.2	-5.7	-0.7	-8.5	1.8	-11.5	-8.2	-16.6	31.0	-7.1
輸出入	通関輸出（金額ベース、円建て）	0.2	-17.1	4.0	0.4		9.9	5.0	0.6	-4.0	-3.1	2.3	
	通関輸入（金額ベース、円建て）	15.6	19.2	25.6	21.6		26.9	27.9	22.7	14.8	20.6	7.6	
物価	消費者物価指数（除く生鮮）	-0.8	-0.2	0.1	-0.1		0.2	-0.2	-0.1	-0.1	0.1	0.3	
	（食料及びエネルギーを除く総合）	-1.4	-1.0	-0.7	-1.2		-0.6	-1.1	-1.2	-1.2	-0.9	-0.6	
金融	国内銀行預金残高	0.7	2.1	2.9	3.2		3.0	3.0	3.4	3.2	3.3	3.2	
	国内銀行貸出残高	-1.6	0.1	0.7	1.4		1.1	1.6	1.2	1.4	1.5	2.7	
倒産	倒産件数	21.4	29.6	-14.3	2.7	-17.6	-7.8	-12.0	32.1	-8.4	0.9	-7.2	-39.4

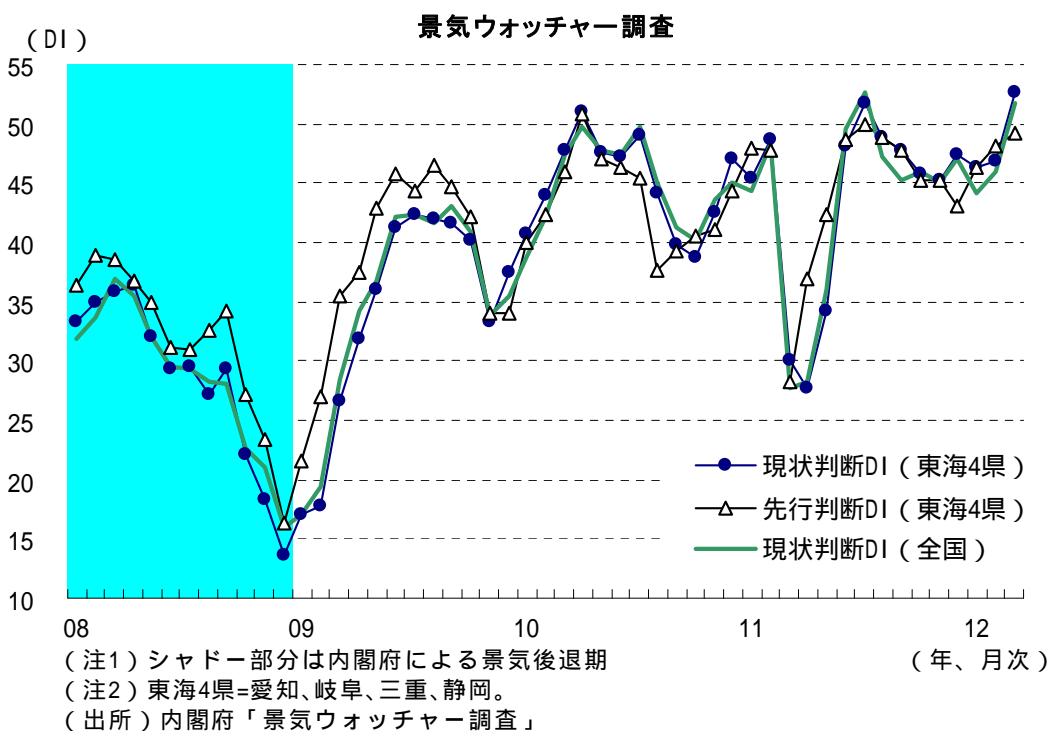
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~ 緩やかに持ち直している

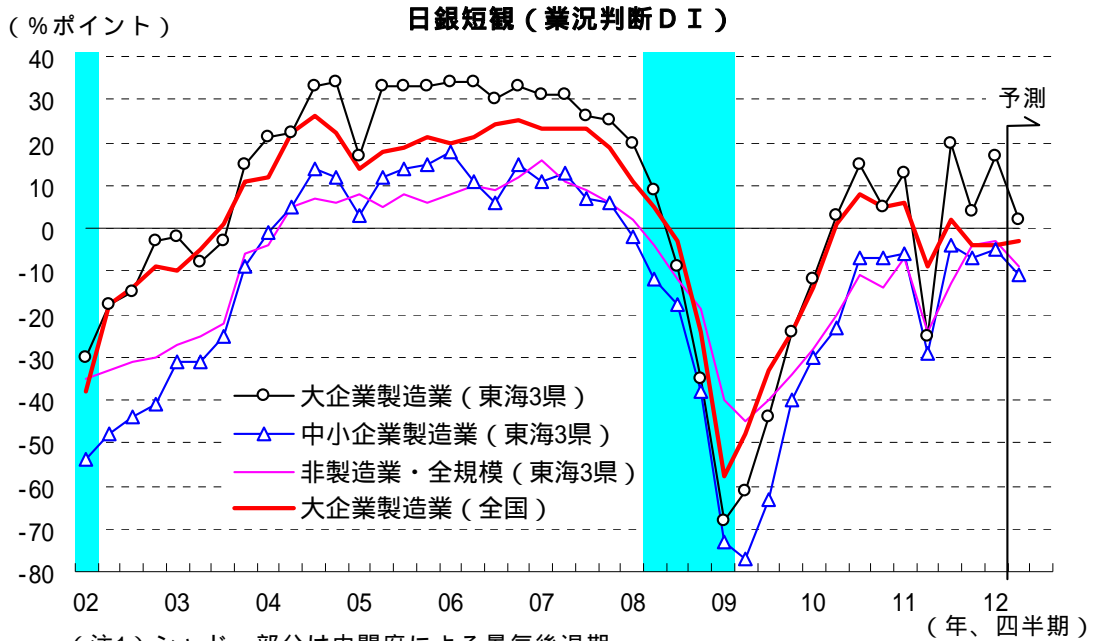
○1月の東海3県の景気動向指数・C I一致指数は、3県とも2ヶ月連続で前月を上回った。愛知県のC I一致指数は、8系列のうち、4系列が上昇、1系列が横ばい、3系列が低下と、依然としてプラス・マイナスは拮抗している。三重県の大幅上昇は指数の改訂も影響している。



○3月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断D Iが前月比5.9ポイント高い52.7と2ヶ月連続で上昇し、景気の横ばいを示す50を上回る水準まで回復した。また、先行き判断D Iは49.2と3ヶ月連続の改善となった。自動車の輸出環境の改善や、エコカー補助金や株高による追い風で、先行きへの期待感が高まっている。

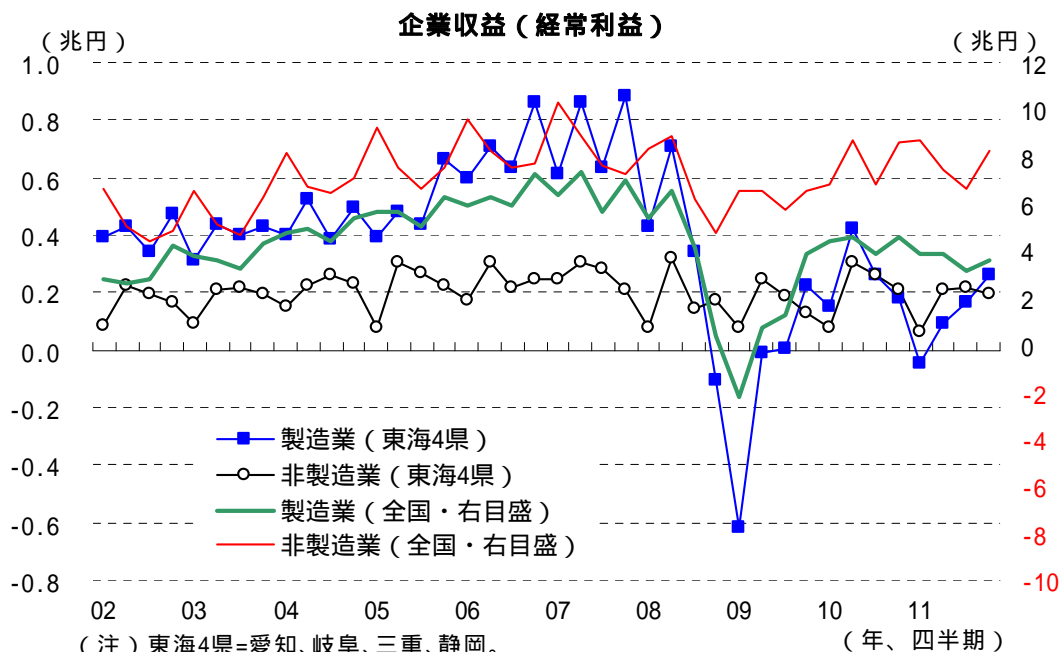


○3月調査では、東海3県の大企業製造業の業況判断DI（「良い」－「悪い」）は+17と、前回12月調査から+13ポイントと大きく改善した。特に、自動車+30、汎用機械+43、金属製品+20が改善に寄与した。一方、中小製造業は-5と前回調査からの改善幅は+2ポイントと小幅にとどまった。大企業製造業の12年6月予測は+2と15ポイント低下する見通しで、先行きへの警戒感は根強い。



（注1）シャドー部分は内閣府による景気後退期
 （注2）調査対象企業見直し時における前回調査の計数は見直し後で接続。
 （注3）東海3県=愛知、岐阜、三重。
 （出所）日銀、日銀名古屋支店「企業短期経済観測調査」

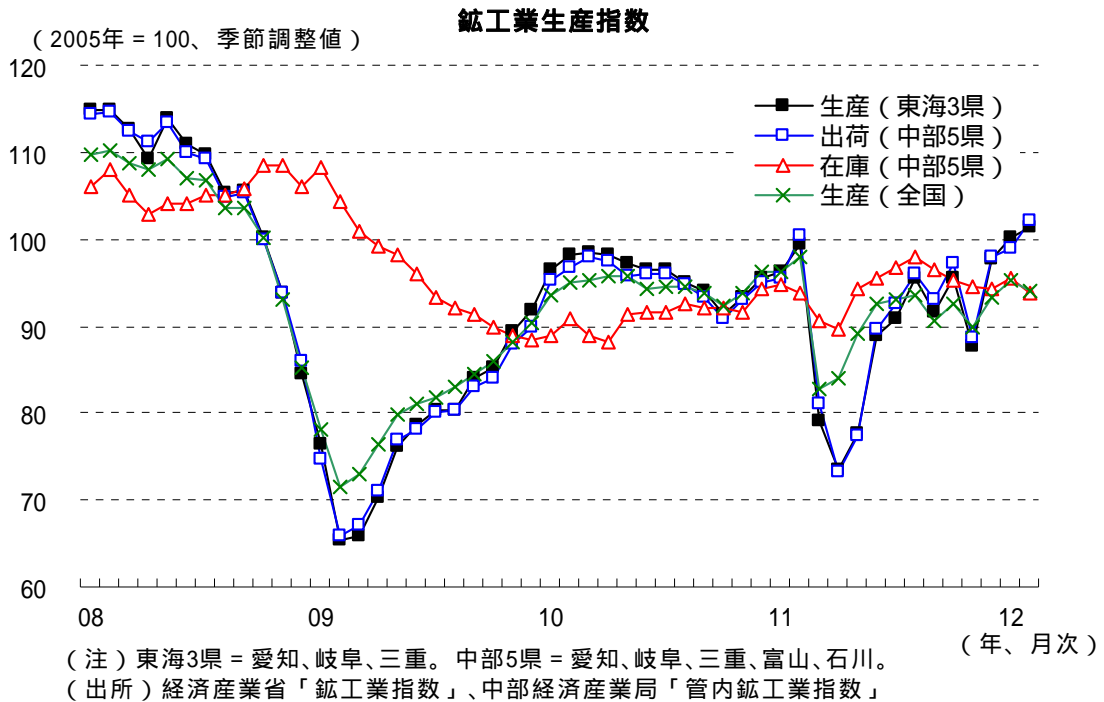
○2011年10～12月期の東海4県の企業収益（経常利益、製造業）は前期比+41.9%と大幅に増加したが、円高やタイ洪水の影響もあり震災前の水準を回復していない。非製造業では前期比-4.5%と小幅に減少した。今後は、資源価格の高止まりや欧州経済の低迷や中国経済の減速などが下押し要因となるが、米国経済の持ち直しや自動車の挽回生産に合わせて、製造業の企業収益は増加が見込まれる。



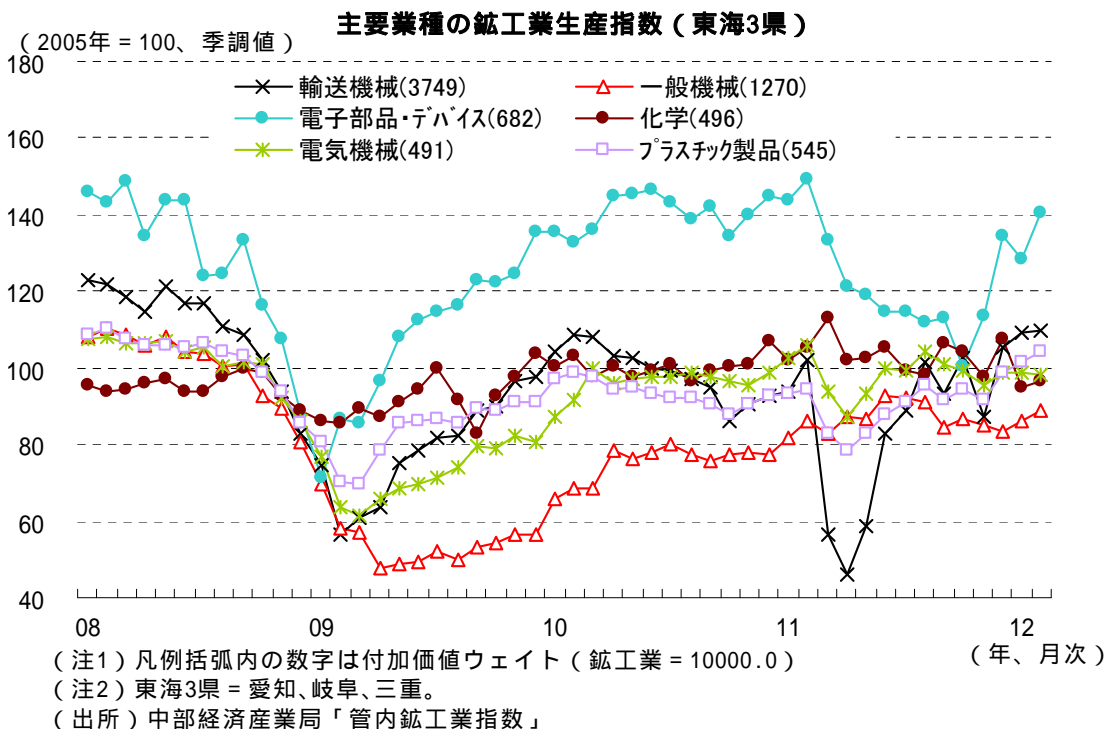
（注）東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
 （出所）財務省「法人企業統計調査」、東海財務局「四半期別法人企業統計調査」

2. 生産 ~急速に持ち直している

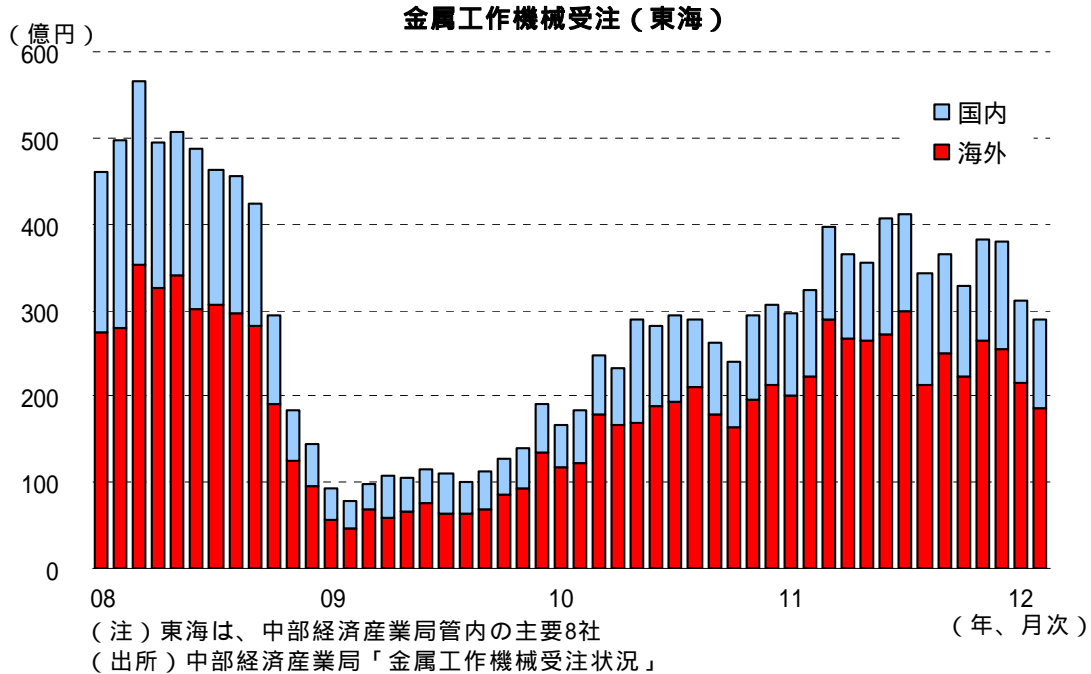
○2月の東海3県の鉱工業生産指数（確報値）は101.3と、前月比で+1.1%となり、3ヶ月連続で前月を上回った。震災直前のピークだった2011年2月（99.4）を上回り、リーマンショック直前の2008年8月の水準（105.3）に近づいている。特に自動車の挽回生産が本格化しており、3月以降も持ち直し傾向が続くとみられる。ただ、4月以降、挽回生産が一段落すると持ち直しが緩やかになると見込まれる。



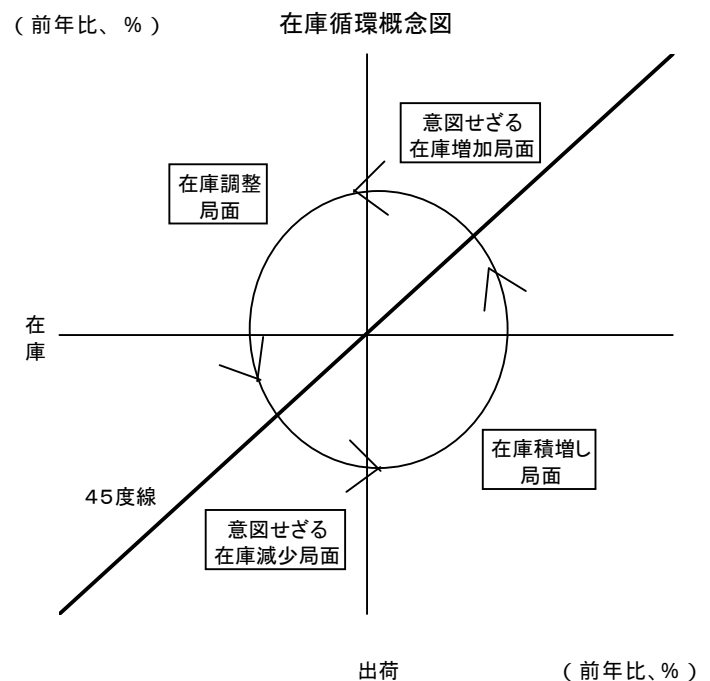
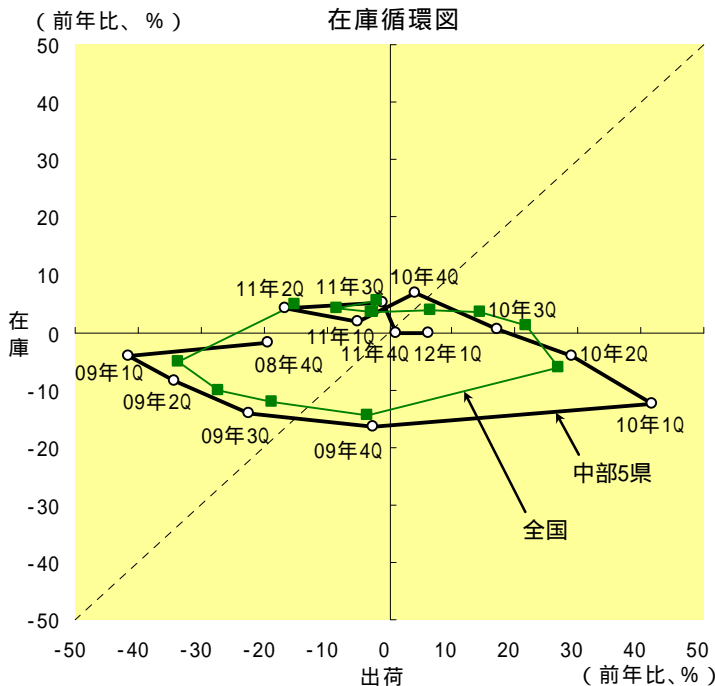
○業種別では、スマートフォン向けの半導体素子、集積回路が好調だった電子部品・デバイスが前月比+9.3%と大きく伸びたほか、新型車投入やエコカー補助金などの効果で自動車関連は好調が続いており、輸送機械工業が同+0.5%と小幅ながら3ヶ月連続で増加した。また、設備投資に関連する一般機械工業も同+3.1%と増加している。



○2月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は前年比-10.7%と27カ月ぶりの減少となった。中国向けは、金融引き締め策の効果や欧州向け輸出の鈍化により-38.1%と大きく減少した。景気低迷が続く欧州向けも-20.6%、自動車や航空機産業が堅調だった米国向けも-5.5%とマイナスに転じた。一方、インド向けは2.6倍。国内受注は+2.5%と2カ月ぶりに増加した。

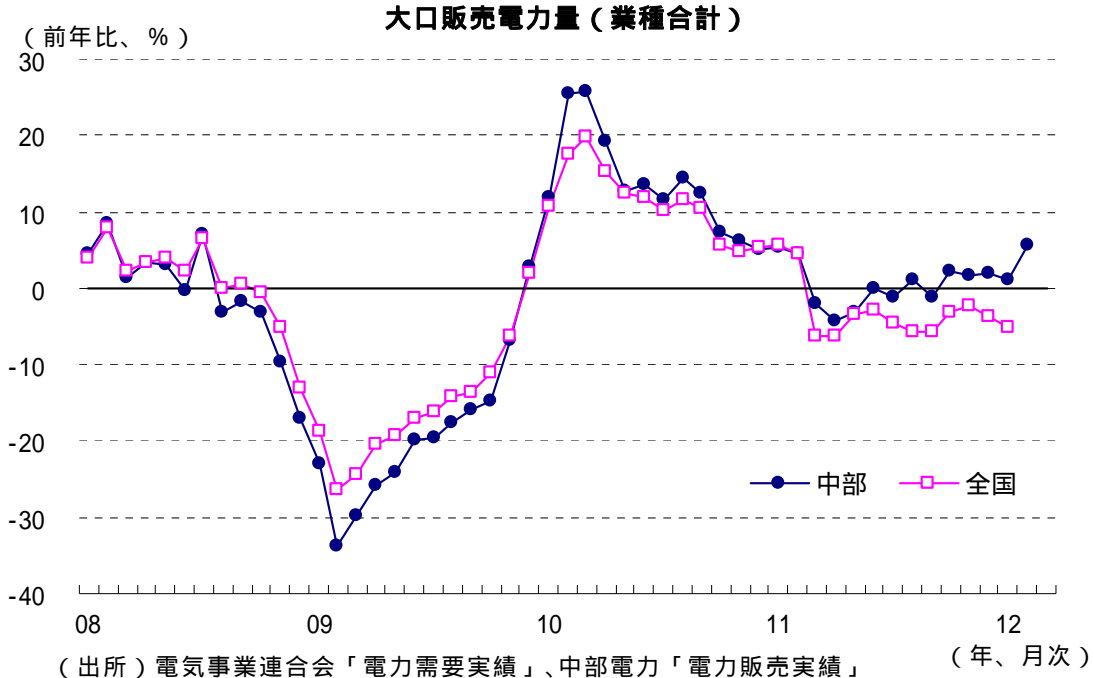


○2月の中部5県の出荷は、輸送機械などを中心に前月比+3.3%と増加し、在庫は同-1.5%となった。自動車関連では不足している在庫復元を目指す動きがみられるものの、液晶素子や電子部品では需要の減少によって積み上がった在庫を削減する動きが続いている。在庫はしばらく横ばい傾向が続くと見込まれるが、在庫率が低下するなど調整は着実に進展しているとみられる。



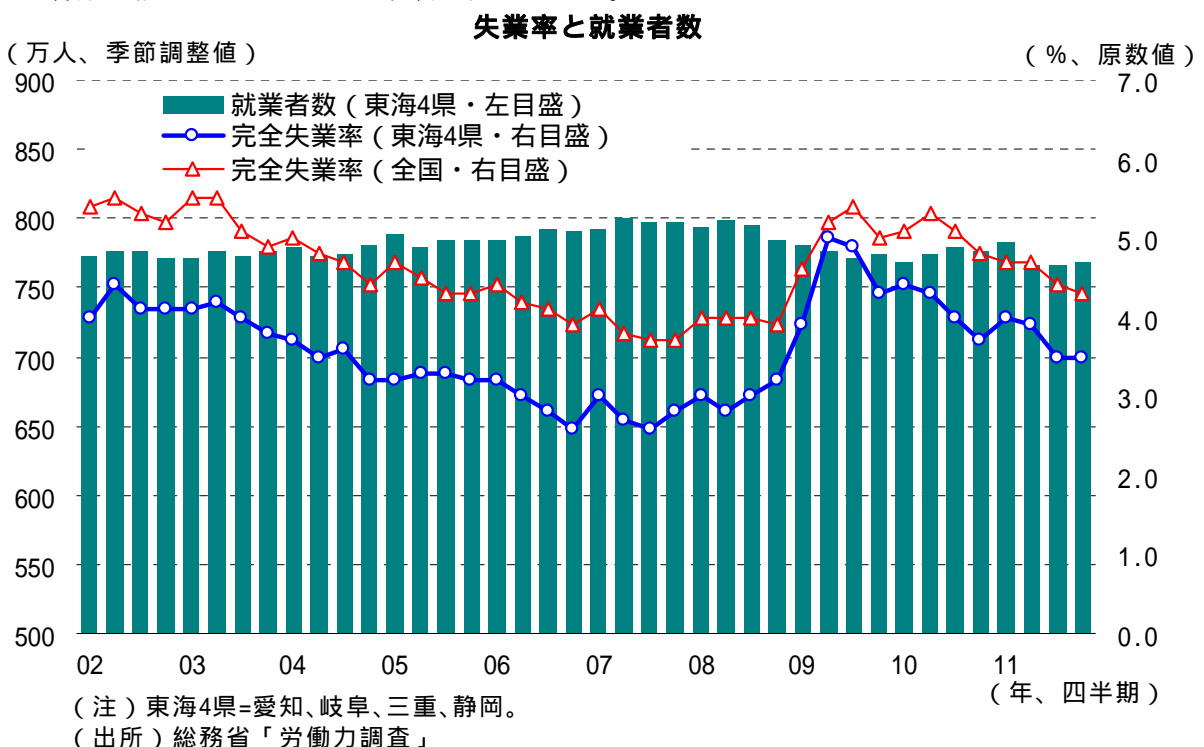
(注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
(注2) 12年1Qの出荷は1、2月平均、在庫は2月の前年比
(注3) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、富山、石川。
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」、中部経済産業局「管内鉱工業指数」

○2月の中部電力管内の大口電力（契約電力500kw以上）は前年比+5.6%（前月比+4.4ポイント）と、5ヶ月連続で増加した。「うるう年」による日数増の影響もあるが、自動車の挽回生産が本格化し、全国を上回る高い伸びが続いている。業種別では、自動車などの機械工業向けが+8.6%、自動車向け鋼材を生産する鉄鋼業向けも+12.0%と増加した。加工型が+6.7%と素材型の伸びを上回っている。

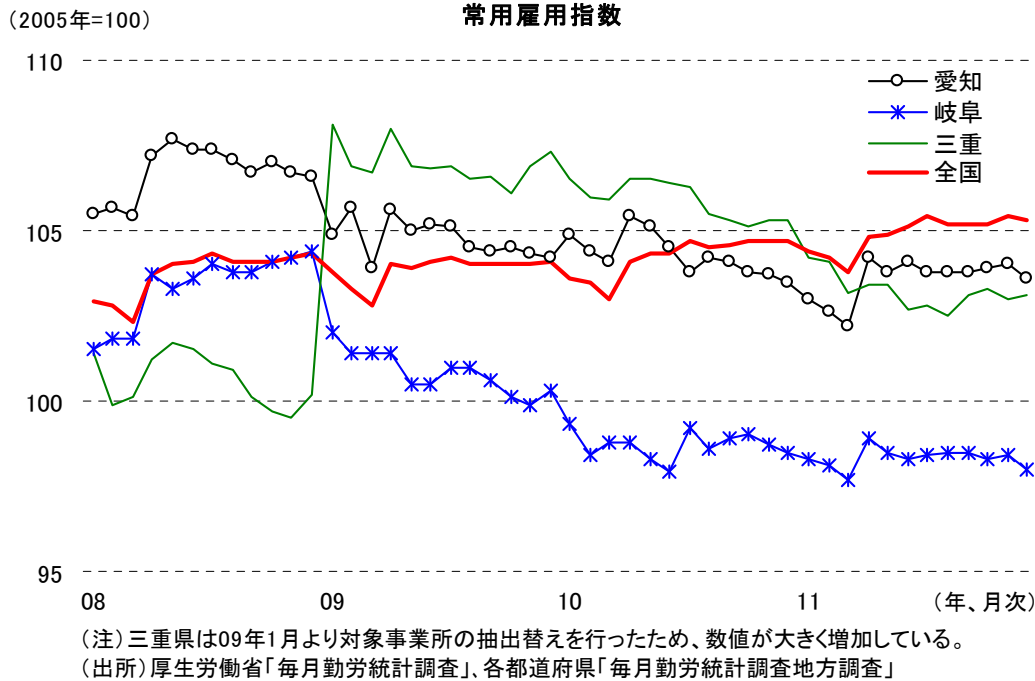


3. 雇用 ~ 緩やかに持ち直している

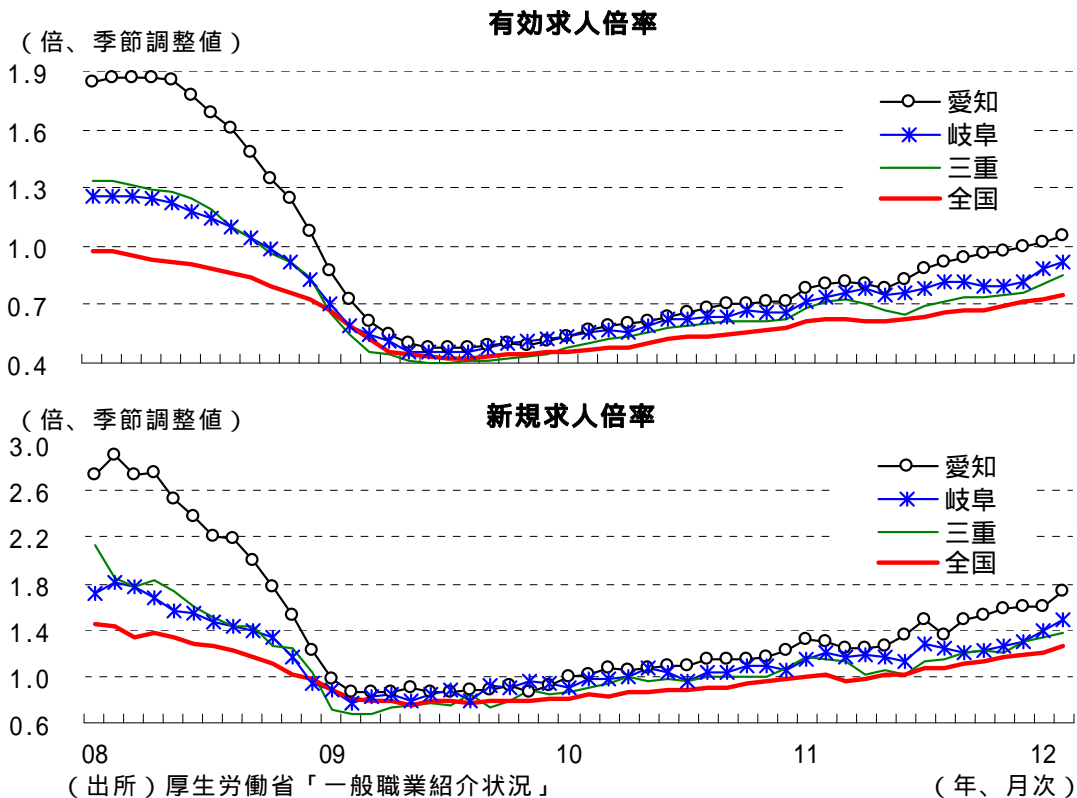
○2011年10～12月期の東海4県の完全失業率は3.5%（前期比±0）と横ばいとなったが、全国の4.3%と比べて低い水準で推移している。震災以降の生産復旧に伴う改善傾向は続いていると考えられる。2011年10～12月期の就業者数は前期比+2万人の微増となったが、今後の雇用情勢も、自動車の挽回生産を背景に緩やかなペースでの改善が見込まれる。



○12月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県と岐阜県がいずれも-0.4%と減少したが、三重県は+0.1%と小幅に上昇した。雇用全体でみると緩やかに回復しているが、常用雇用でみる限り、緩やかな増加基調にある全国に比べて弱めのトレンドとなっている。東海3県の雇用改善は非正規が中心で常用雇用への波及は緩やかである。



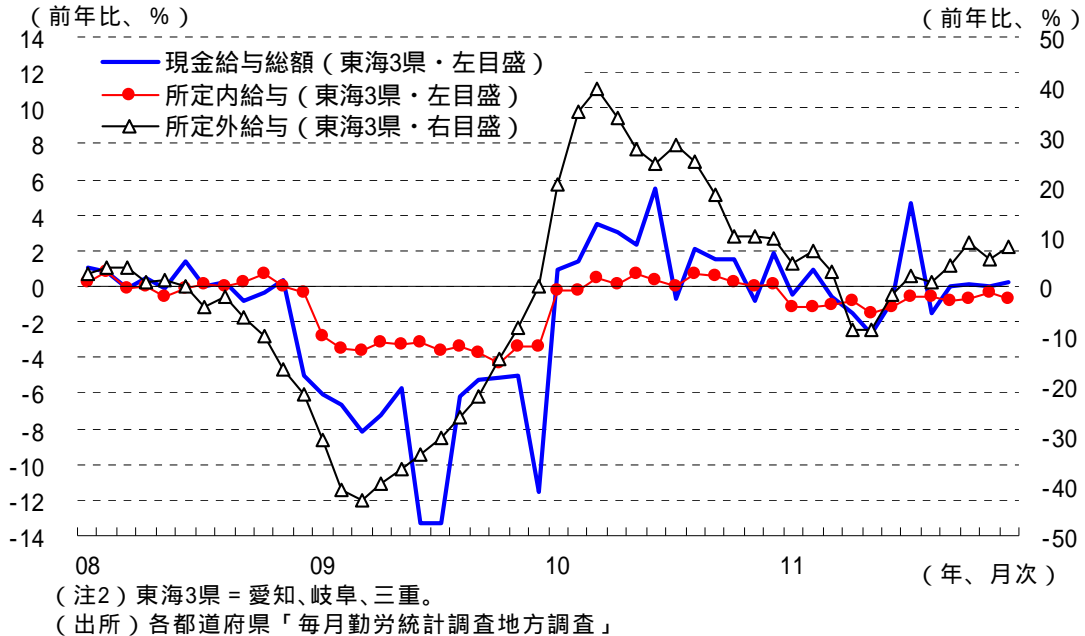
○2月の東海3県の有効求人倍率は、愛知1.05倍、岐阜0.92倍、三重0.85倍といずれも上昇し、3ヶ月連続で3県とも改善した。愛知県は全国で3番目に高いが、挽回増産を続ける自動車など製造業の求人増が寄与している。一方、新規求人倍率も、愛知1.74倍、岐阜1.49倍、三重1.37倍と3県とも改善したが、新規求人数の半数近くを非正規雇用が占める状況は変わっていない。



4. 賃金 ~ 緩やかに持ち直している

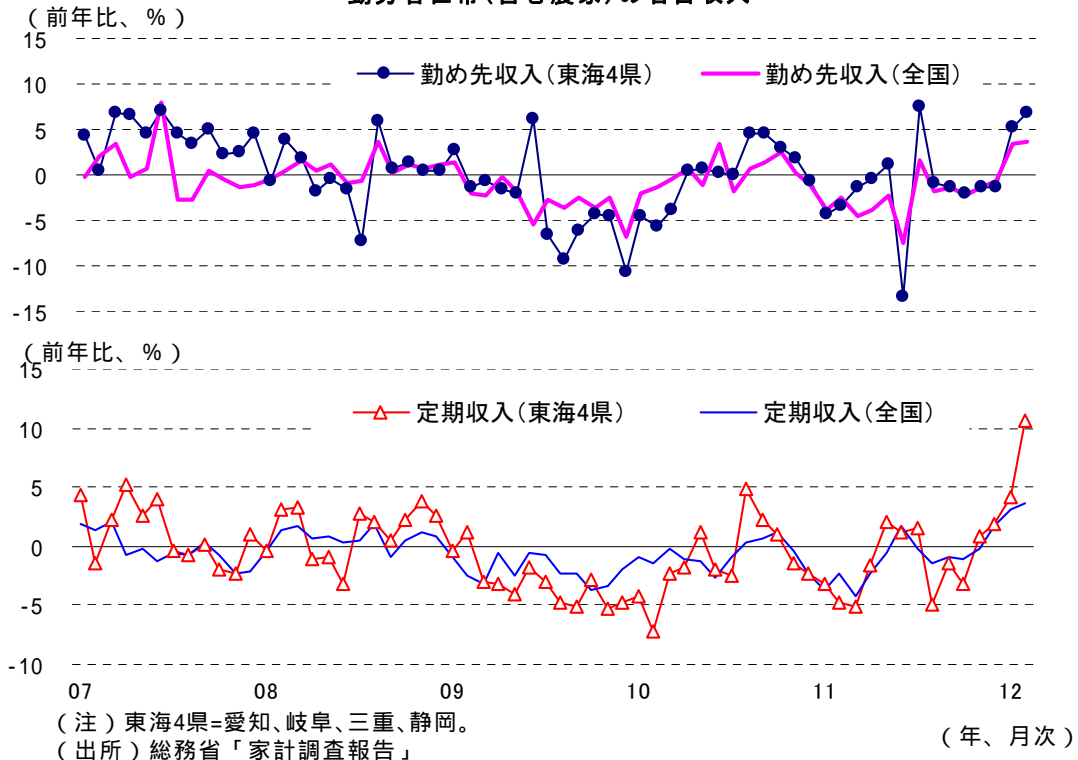
○12月の一人当たり現金給与総額（確報値）は前年比+0.2%と小幅ながら4ヶ月連続の増加となった。所定内給与は前年比-0.7%と12ヶ月連続で減少したものの、所定外給与は前年比+8.1%と6ヶ月連続で増加した。今後、賃金は持ち直していくとみられるものの、企業の人件費抑制姿勢は根強く、緩やかな伸びにとどまるだろう。

現金給与総額と所定内・所定外給与



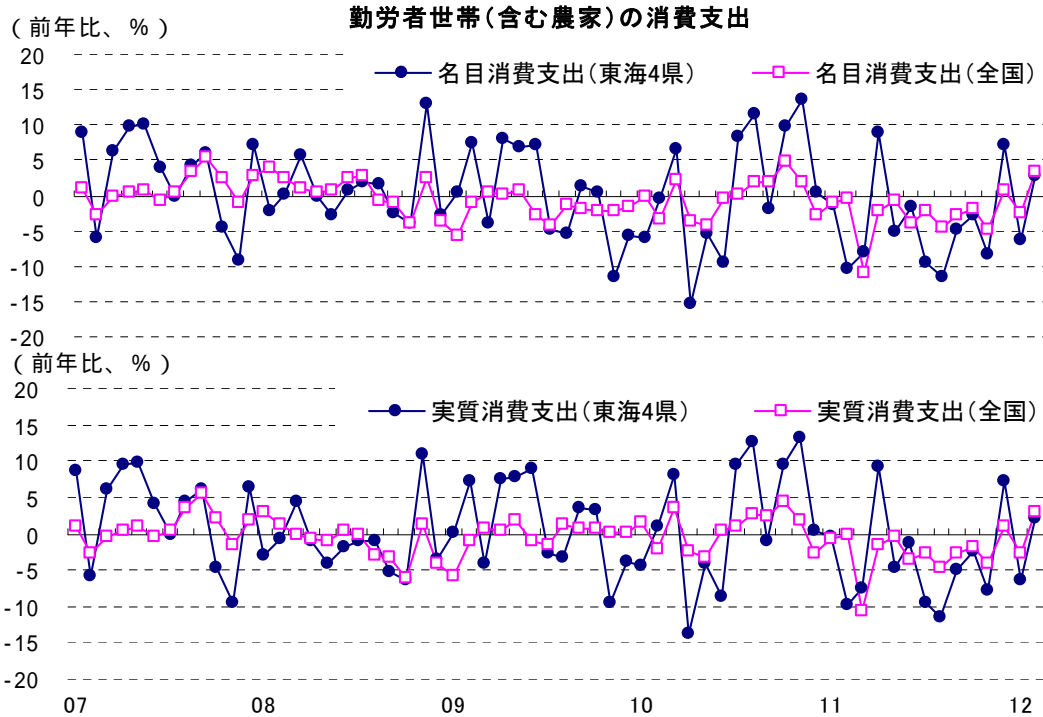
○家計調査によると、2月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の賞与を含む勤め先収入は前年比+6.8%と2ヶ月連続で増加した。自動車の挽回生産を背景に所定外給与の増加が寄与し、定期収入は前年比+10.7%と大幅増となり、4ヶ月連続の増加となった。今後も持ち直し傾向が続くと見込まれる。

勤労者世帯(含む農家)の名目収入



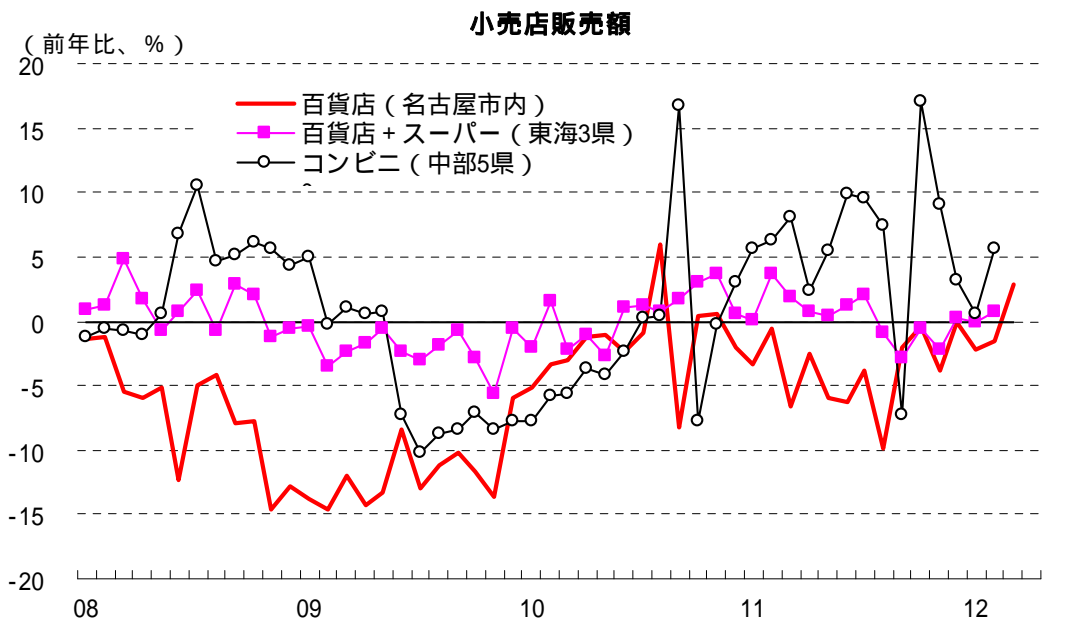
5. 個人消費 ～緩やかに持ち直している

○2月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は前年比+2.7%と2ヶ月ぶりに増加し、一進一退ながら緩やかに持ち直している。今後も、非正規を中心とした雇用環境の持ち直しや所定外給与を中心とした所得環境の持ち直しが続くと予想され、個人消費も底堅く推移すると見込まれる。



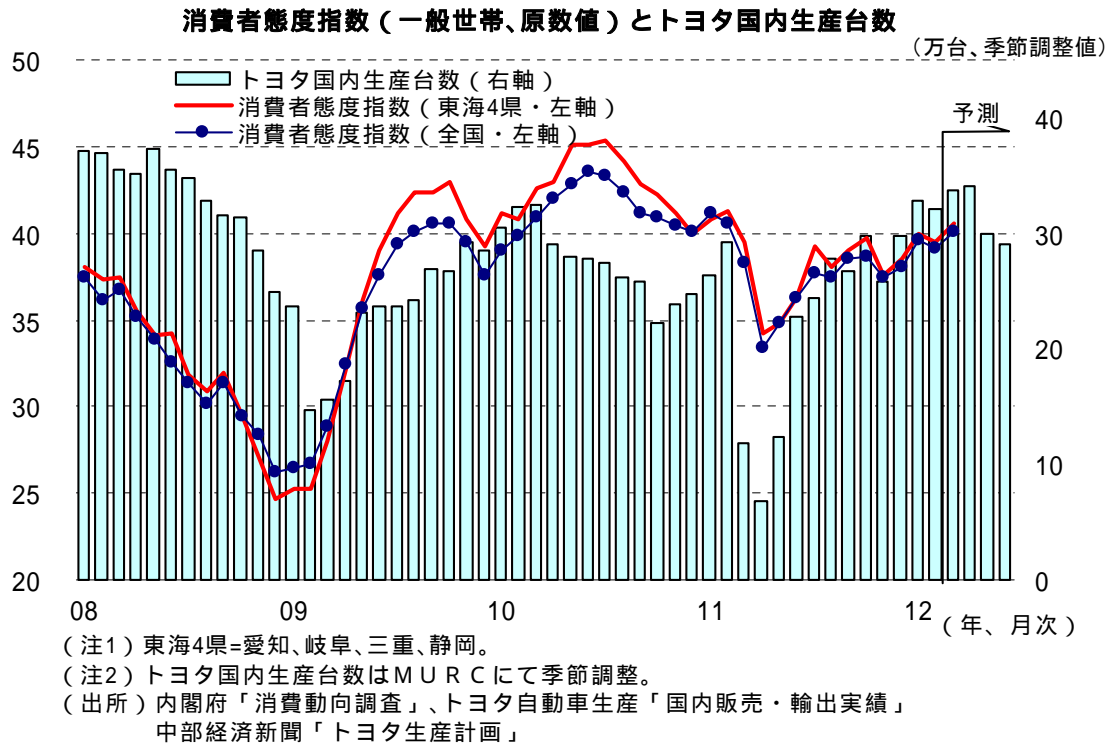
(注1) 東海の実質消費支出はMURC試算 (注2) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。(年、月次)
(出所) 総務省「家計調査報告」

○3月の名古屋市内の百貨店販売額（速報値）は前年比+2.9%と、震災で落ち込んだ前年3月の反動増という要因に加え、株高が追い風となり宝飾品など高額消費が好調に推移した。また、2月の東海3県の大型小売店（百貨店+スーパー）の販売額は+0.8%、中部5県のコンビニエンスストア販売額も+5.6%と増加傾向が強まっている。

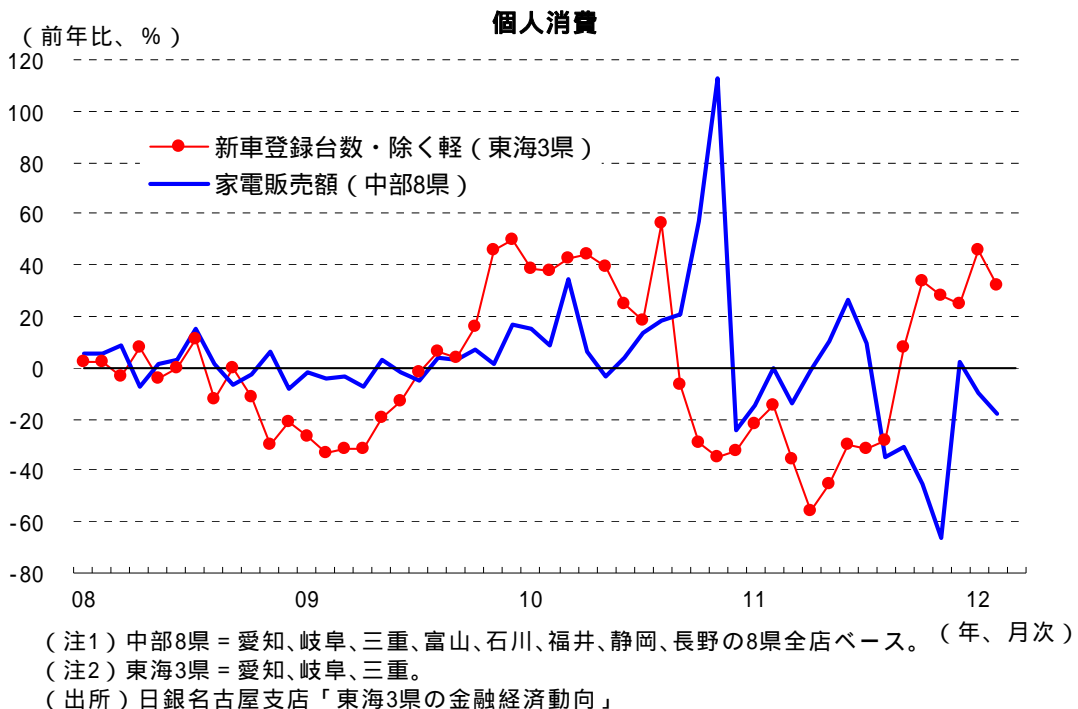


(注1) 百貨店+スーパー(東海3県)は名古屋市内の百貨店販売額を除く。
(注2) 中部5県=愛知、岐阜、三重、富山、石川。東海3県=愛知、岐阜、三重。
(出所) 中部経済産業局「管内大型小売店販売概況」、日本百貨店協会「全国百貨店売上高概況」

○消費者マインドを表す消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は震災からの改善傾向が続いており、3月は前月比、前年同月比とも1.0ポイントの上昇となった。東海の消費者マインドは、トヨタの生産動向の影響を受けやすく、挽回生産がピークを迎え、全国と比べてやや高い水準での推移が続いている。4月も高水準の生産が続くため、当面は消費者マインドの改善が続くと見込まれる。

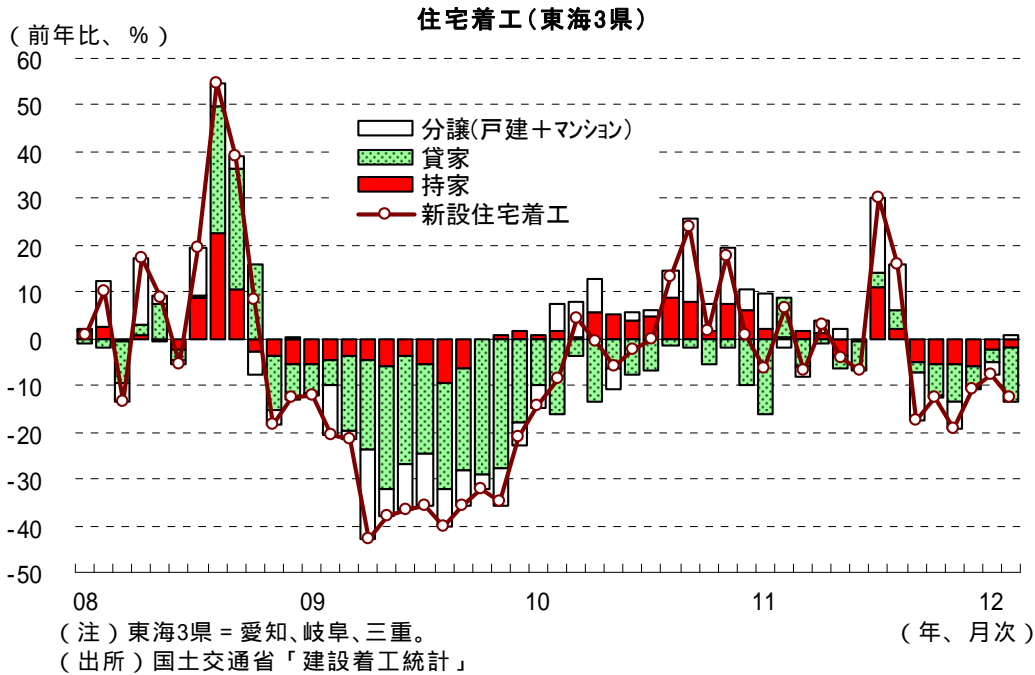


○2月の東海3県の新車登録台数（乗用車、除く軽）は、前年がエコカー補助金終了直後の反動で低水準だったこともあり、前年比+32.4%と大幅増が続いている。今後もエコカー補助金などにより好調な販売が続くと見込まれる。一方、2月の中部8県の家電販売額は前年比-18.2%と2ヶ月連続で減少した。スマートフォンなどの高機能携帯は堅調だが、主力のテレビやパソコンの不振が続いている。



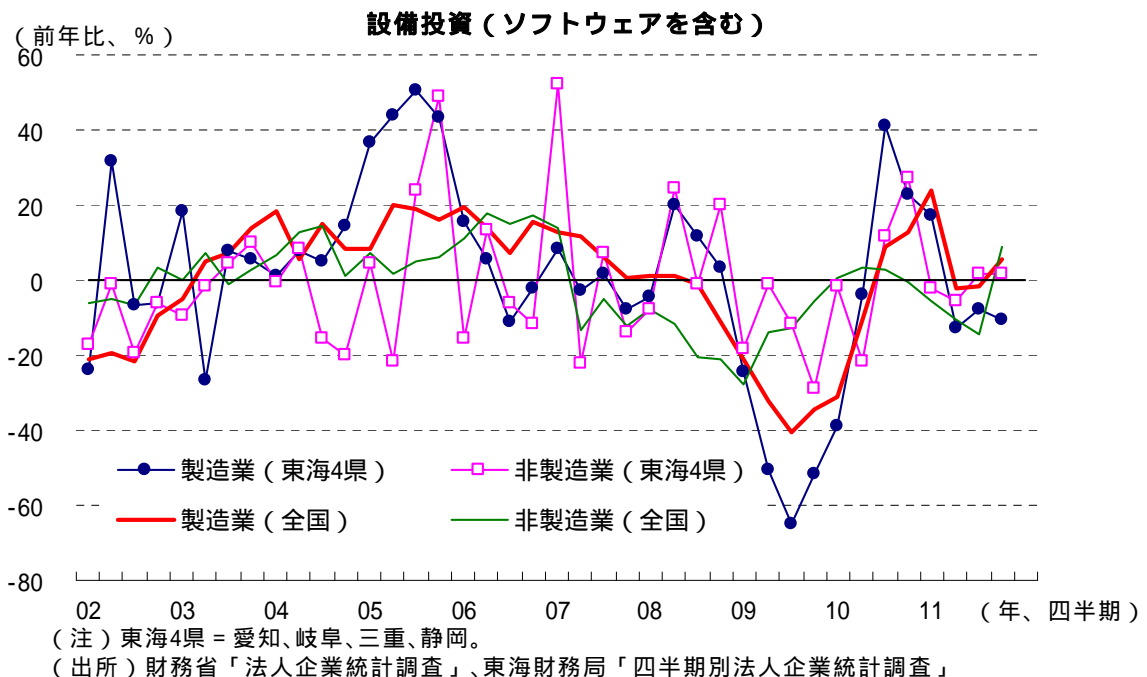
6. 住宅投資 ~弱含んでいる

○2月の東海3県の住宅着工戸数は、前年比-12.7%の5,770戸となり6ヶ月連続で減少した。利用関係別では、分譲が小幅プラスに転じたものの、貸家が-11.8%と大幅減で、持家もマイナスに寄与した。全国的に貸家と分譲は回復傾向だが、輸出企業の業績悪化を背景に、東海では賃貸マンションなどの建設が低迷している。先行きは、雇用・所得環境の改善とともに下げ止まってくると見込まれる。



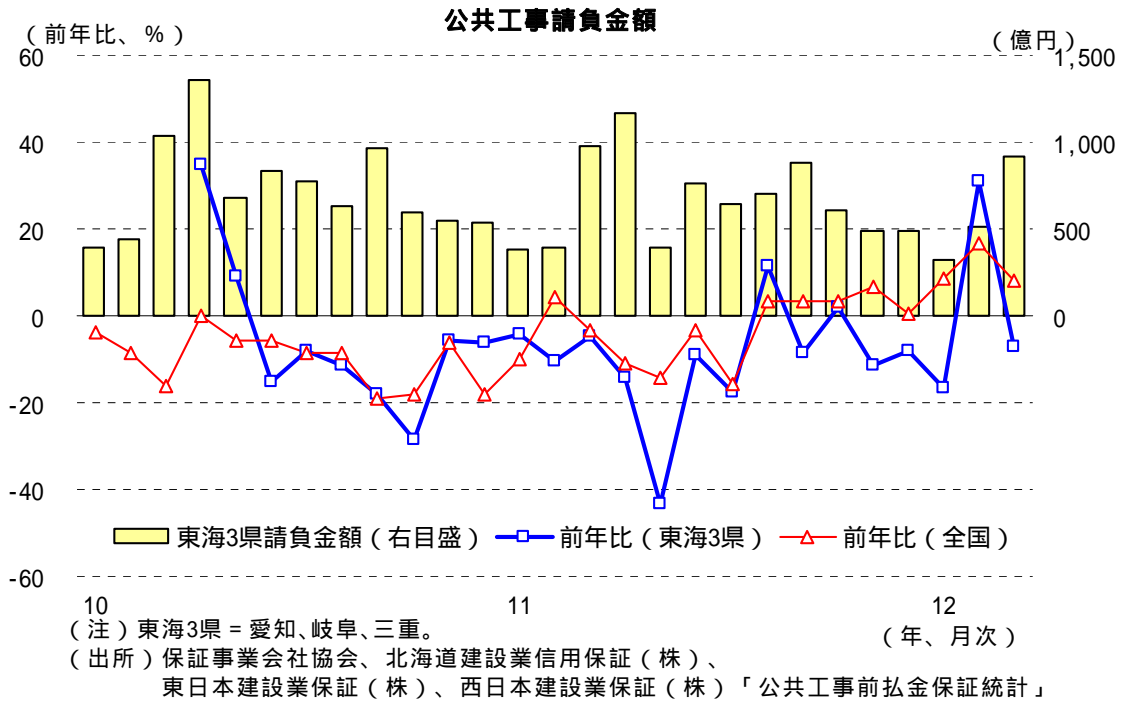
7. 設備投資 ~底堅く推移している

○2011年10~12月期の東海4県の製造業の設備投資は前期比-10.5%と三四半期連続で減少したが、非製造業(ソフトウェアを含む)は前年比+1.7%と二四半期連続で増加した。東海地区の設備投資は底堅く推移している。日銀短観3月調査によると、12年度の設備投資計画は、製造業(+0.2%)、非製造業(+9.4%)ともに増加が見込まれているが、製造業は慎重な姿勢を崩していない。



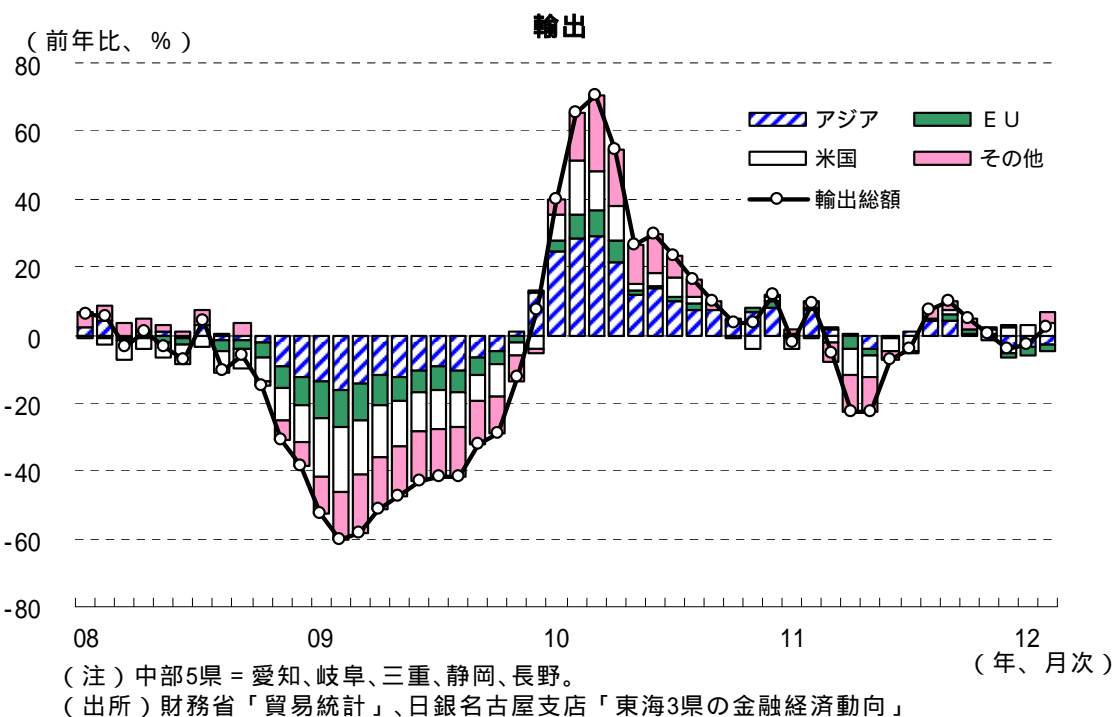
8. 公共投資 ~ 減少傾向にある

○3月の東海3県の公共工事請負額は、前年比-7.1%の911億円と減少した。2月は+31.0%と一時的に急増しているが、昨年の台風12号の災害復旧および防災対策の進展によるもので、その影響を除くと、下げ止まったとはいえない。今後、全国的には東日本大震災の復興需要が本格化してくるが、東海への波及はほとんど期待できず、公共投資の減少傾向は続くと思込まれる。

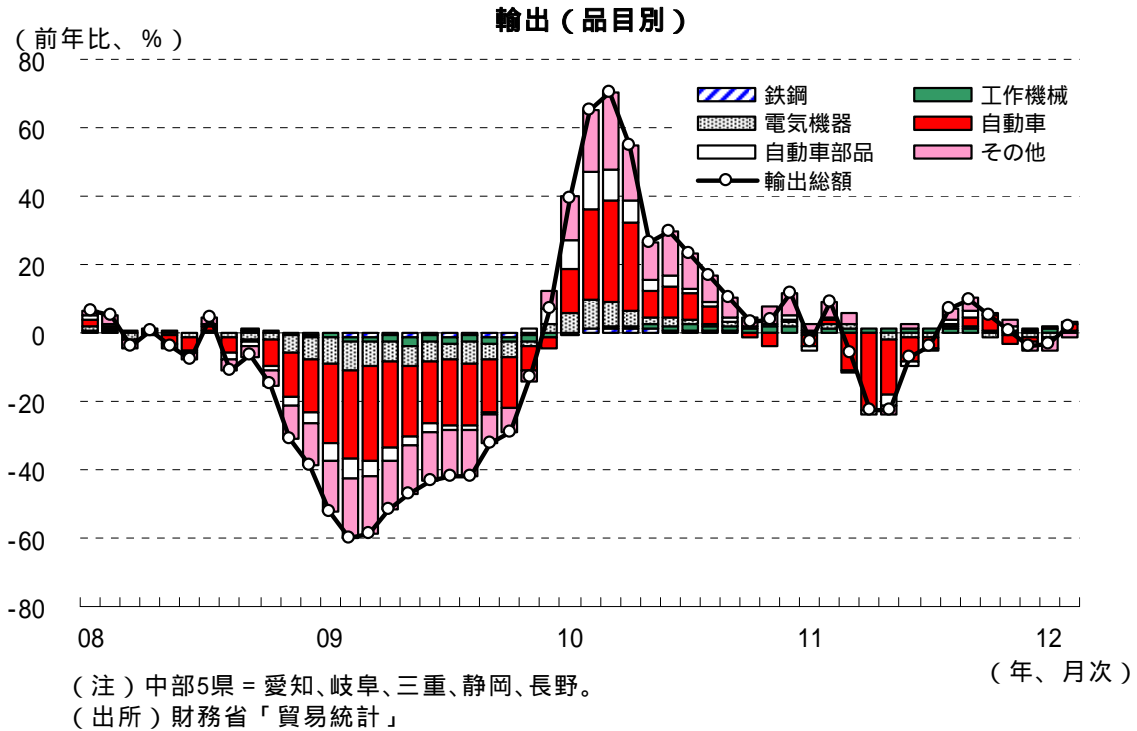


9. 輸出入 ~ 輸出は下げ止まり、輸入は増加基調

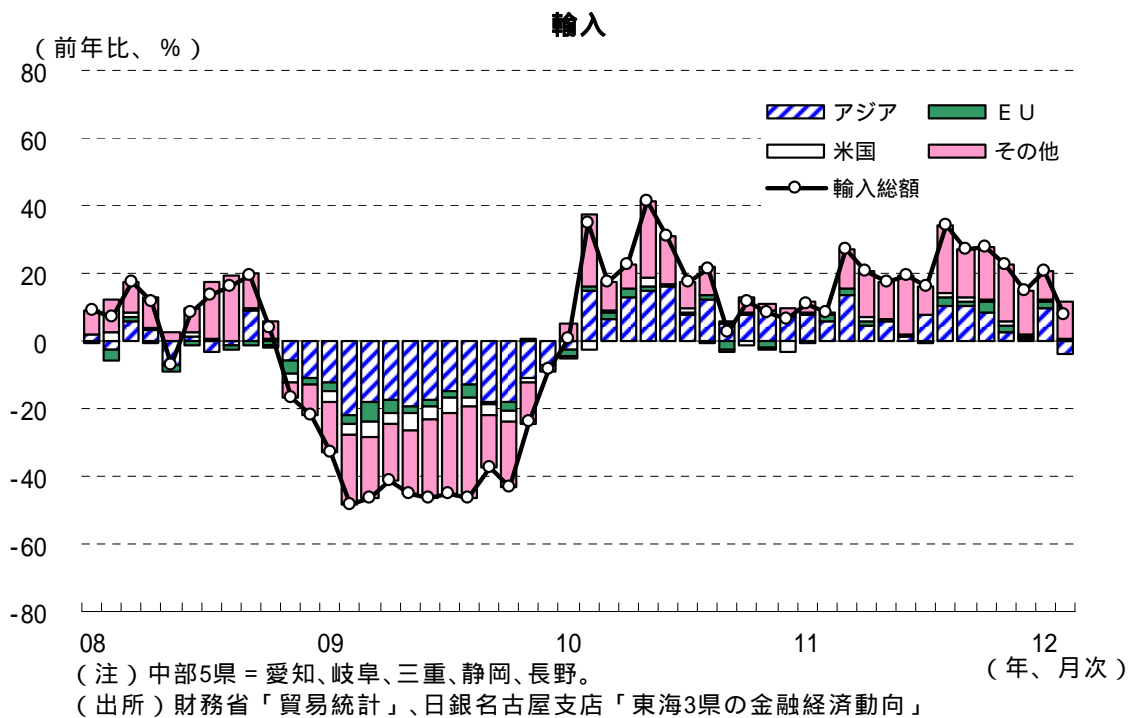
○2月の名古屋税関管内の輸出額は前年比+2.3%と3ヶ月ぶりに増加に転じた。地域別の寄与度をみると、中国などアジア向け(-2.6ポイント)とEU向け(-2.0ポイント)がマイナスに寄与した一方、自動車販売が堅調な米国向け(+3.7ポイント)が増加に寄与した。



○品目別にみると、自動車（+2.0ポイント）や自動車部品（+0.5ポイント）、工作機械（+0.8ポイント）がプラス寄与となっている。特に、工作機械輸出は24ヶ月連続で増加している。

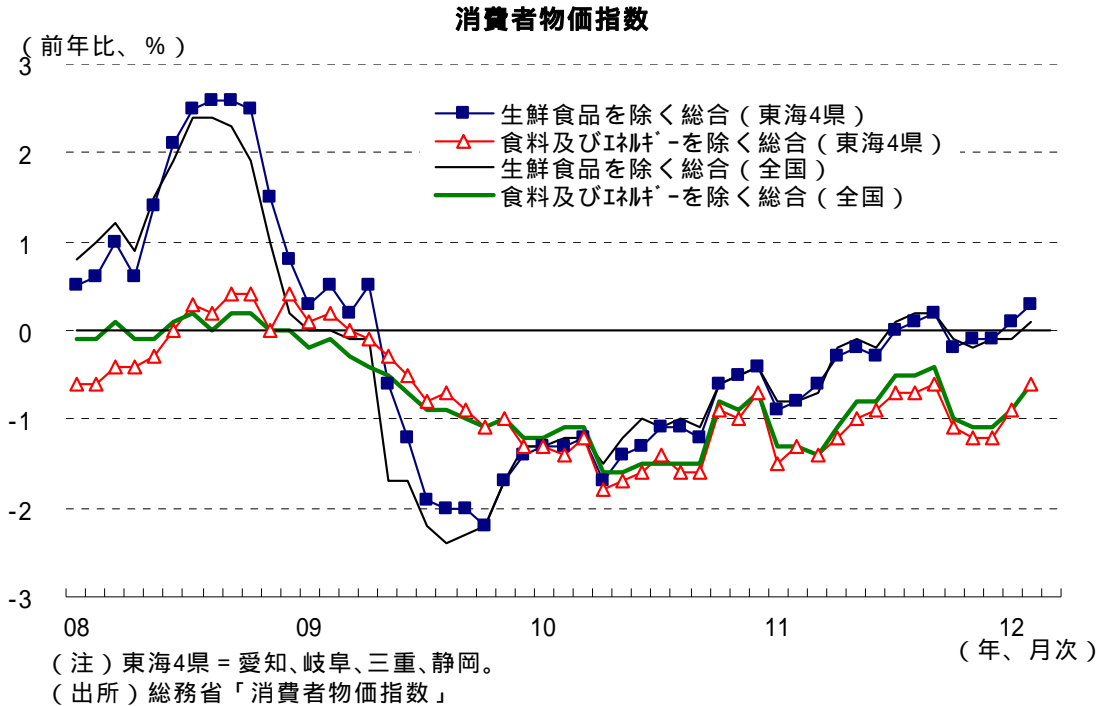


○2月の名古屋税関管内の輸入は前年比+7.6%と26ヶ月連続で増加した。地域別にみると、中東などその他地域からの原油やLNGガスの輸入が大きく寄与した。今後も、浜岡原発停止を背景にLNGガスなどの鉱物性燃料の需要が安定的に推移することから、輸入も高水準で推移すると見込まれる。



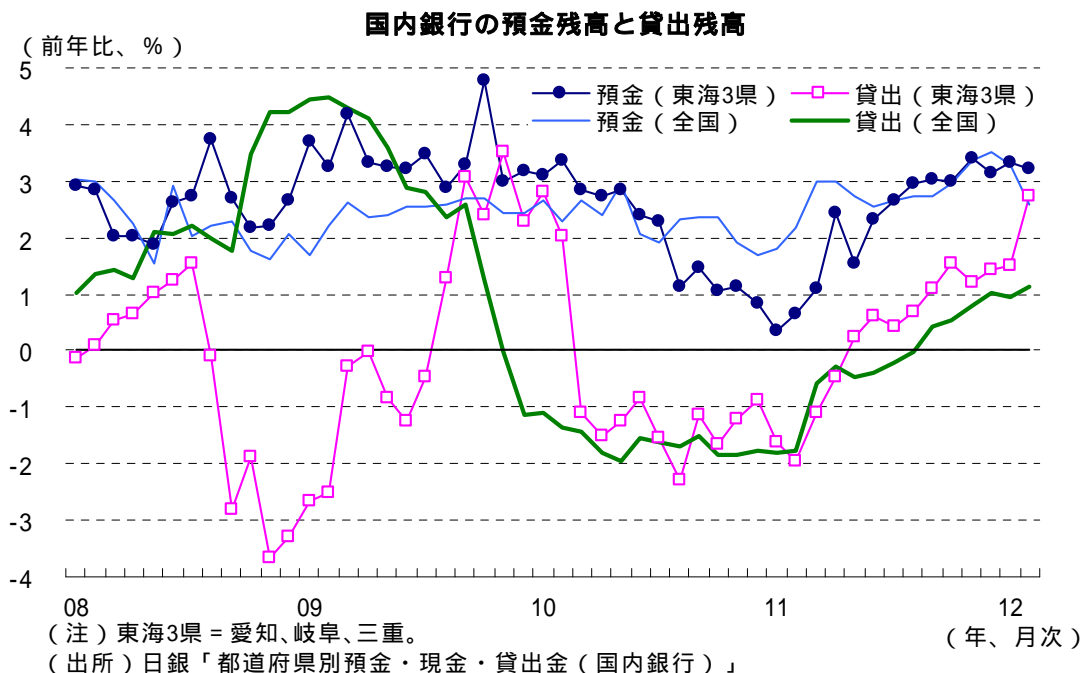
10. 物価 ~ 消費者物価は横ばい

○2月の東海4県の消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合で前年比+0.3%と上昇した。一方、食料・エネルギーを除く総合では-0.6%と下落が続いているものの、マイナス幅は縮小している。家計の所得環境の持ち直しは緩やかであり、依然として物価の上昇圧力は弱い。消費者物価は今後も横ばい圏での推移が見込まれる。



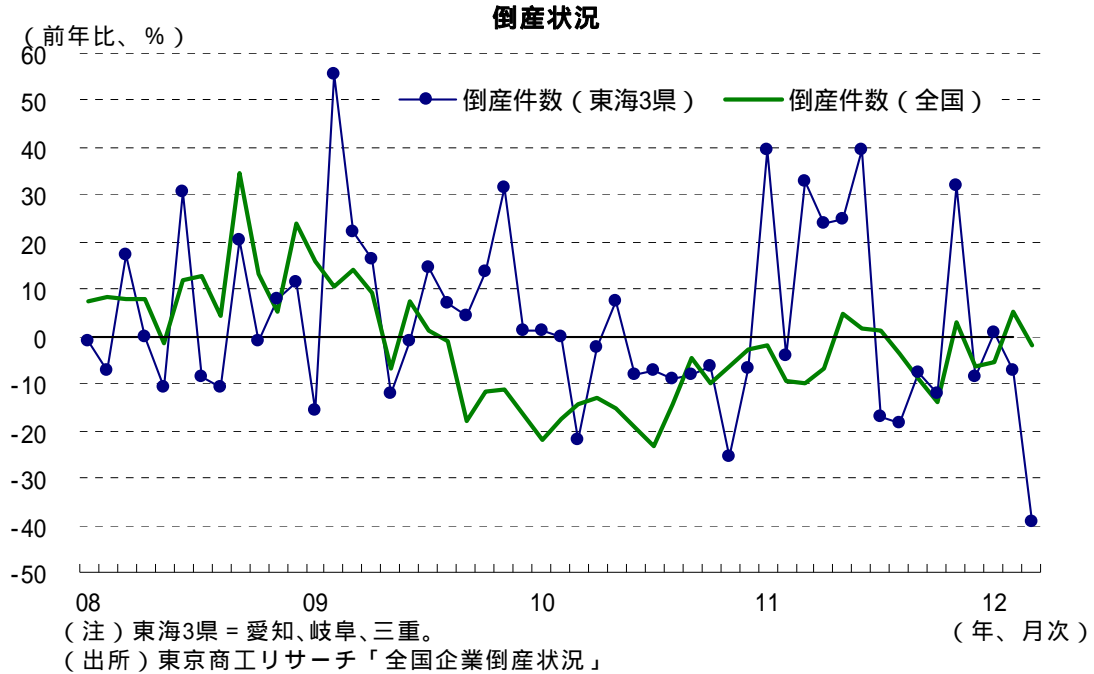
11. 金融 ~ 預金、貸出ともに増加

○2月の東海3県の預金残高（国内銀行ベース）は前年比+3.2%の45.3兆円となった。一方、貸出残高（国内銀行ベース）は前年比+2.7%の23.2兆円と10ヶ月連続で増加した。住宅ローンは伸びていないが、中堅・中小製造業の海外進出やM&Aなどの資金需要は根強く、東海3県の貸出の伸びは前月の+1.5%から1.2ポイント上昇し、全国比で高い伸びが続いている。



12. 倒産 ～ 倒産件数、負債総額ともに減少

○3月の東海3県の倒産件数は、前年比-39.4%の83件と2ヶ月連続で減少し、減少幅も大幅であった。負債総額も174億円と同-32.0%の減少となった。引き続き中小・零細企業の小口倒産が多く、建設業やサービス業の倒産が目立っている。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗		↗	輸出	全国	→		→
	東海	↗		→		東海	↗		↗
	関西	↘		→		関西	→		→
個人消費	全国	↗		↗	輸入	全国	→		↗
	東海	↗		→		東海	↗		↗
	関西	↗		↗		関西	→		↗
住宅投資	全国	→		↗	生産	全国	↗		↗
	東海	↘		→		東海	↗		→
	関西	→		→		関西	→		→
設備投資	全国	↗		↗	雇用	全国	→		→
	東海	→		→		東海	↗		→
	関西	↘		→		関西	→		→
公共投資	全国	→		↗	賃金	全国	→		→
	東海	↘		→		東海	↗		→
	関西	↘		↘		関西	→		→

: 晴れ
 : 薄日
 : 曇り
 : 小雨
 : 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャド一部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は4月3日時点の予報。

【各項目のヘッドライン】

項目	3月のコメント		4月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	弱含んでいる	弱含んでいる
2. 生産	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	急速に持ち直している	急速に持ち直している
	関西	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
3. 雇用	全国	厳しい中で一進一退	厳しい中で一進一退
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	厳しい中で一進一退	厳しい中で一進一退
4. 賃金	全国	下げ止まりの動き	下げ止まりの動き
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	下げ止まりの動き	下げ止まりの動き
5. 個人消費	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
6. 住宅投資	全国	緩やかな持ち直し基調にある	緩やかな持ち直し基調にある
	東海	弱含んでいる	弱含んでいる
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
7. 設備投資	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	底堅く推移している	底堅く推移している
	関西	弱含んでいる	弱含んでいる
8. 公共投資	全国	増加は一服している	増加している
	東海	減少傾向にある	減少傾向にある
	関西	減少している	減少している
9. 輸出入	全国	輸出は横ばい、輸入は増加傾向	輸出、輸入とも横ばい
	東海	輸出は下げ止まり、輸入は増加基調	輸出は下げ止まり、輸入は増加基調
	関西	輸出は減少傾向、輸入は増加傾向	輸出、輸入とも横ばい
10. 物価	全国	国内企業物価は緩やかに上昇、消費者物価は弱含み	国内企業物価は緩やかに上昇、消費者物価は弱含み
	東海	消費者物価は横ばい	消費者物価は横ばい
	関西	消費者物価は弱含み	消費者物価は横ばい
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金は増加、貸出は減少	預金は増加、貸出は減少
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに減少

(注) シャドウ部分は前月と比較して見方を変更した項目

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

○レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

○3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

○現況・・・各項目の現在の「水準」を①晴れ、②薄日、③曇り、④小雨、⑤雨の5段階に分類。

○～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が①改善、③悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

○各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

○全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

○右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

○景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

○当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

○発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

○【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。